発行：福生市生活環境部
協働推進課

❖男女共同参画情報誌❖

あなたとわたし

vol.41
2013.3月号

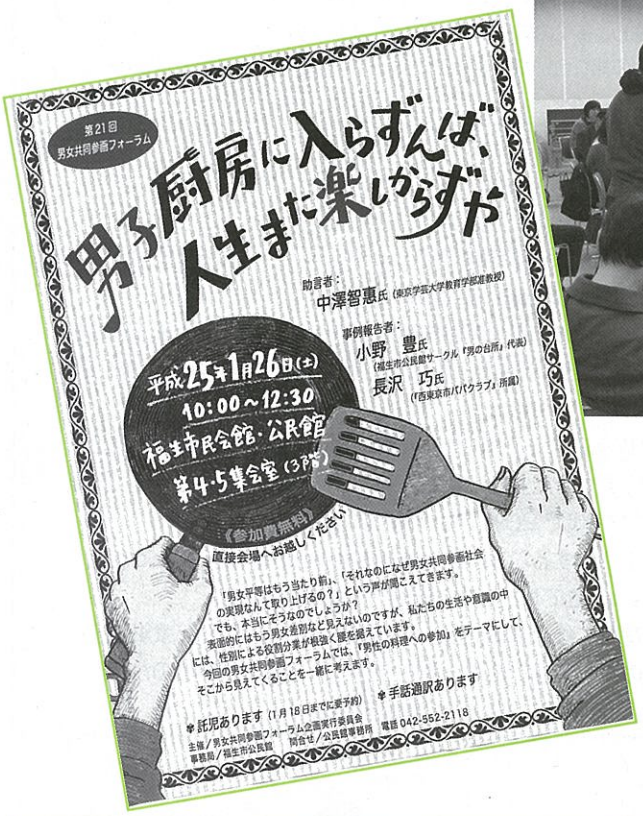
手をつなぎ　足もとしっかり　良い社会

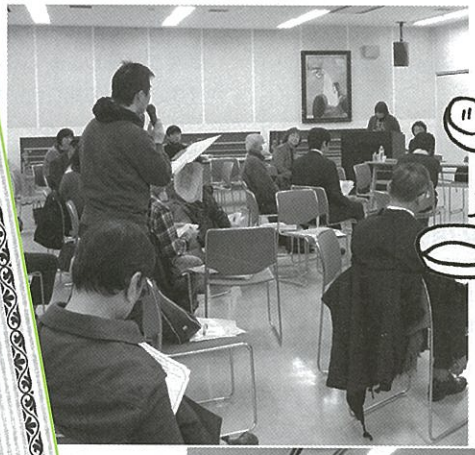
取材しました！

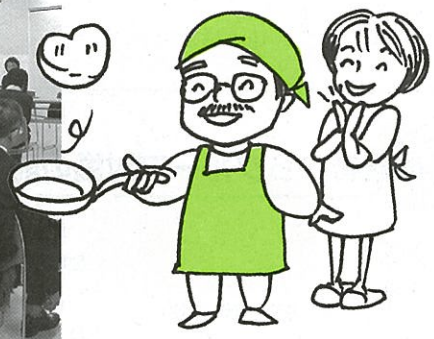
第21回　男女共同参画フォーラム
男子厨房に入らずんば、人生また楽しからずや

1月26日（日）に行われた「第21回男女共同フォーラム」に参加（取材）してきました。
2人の事例報告者が男性ということもあり、関心を持った男性参加者の姿が目立ちました。

「男女平等」は当たり前？なのでしょうか。「男女共同参画社会の実現」というと「自分には関係ない」とか「男女平等はもう当たり前になっているよ」という声もあります。
今回は、みなさんの身の回りのことから男女共同参画を考えてみます。







目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、**今号の内容を要約した文字情報**を音声で聞くことが出来ます。専用の読み取り装置は市内の公共施設９か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。

グループの意見交流の発表

①グループ

●その時々のライフステージに合った生活スタイルへと変えていくことが必要。また情報収集も必要。
●社会の体制や制度が変わっていかないと良くならない。
●育児休暇を経験した人の話をどんどん発信していってほしい。

②グループ

●男性の家事・育児に対して、下手でも認めていくことが必要。
●夫のすること、妻のすることなど、ルールを決める。
●働きながらの家事・育児はむずかしいので、雇用体系を変えていくこと、女性も男性ももう少し短い時間で働けるようにするなど。
●普段の生活の中で、意識を変えていく。手段として、例えば「男性も育児休暇が取れます」とか「ワークシェアリングをしましょう」などのキャンペーンや電車の電光板の活用。

③グループ

●男性に家事・育児をしようとする気持ちをもってほしい
●ほめてほしい！！男性も女性もほめてほしいことは共通
●男性だって女性だって初めはできないのだから（例えば料理）、やってみることが大事。
●意識がかわるようなきっかけがあるといいね。

④グループ

●制度自体を知る・勉強するチャンスが必要
●学校の家庭科は男女とも同じことを習うので、そこで身に付けたことを支援していくことが大事
●妻が専業主婦だと「夫が稼いできたお金を使わせてもらっている」という意識が若い人にもあるので、考えていく必要がある。

⑤グループ

●男女に関係なく家事を協力し、認め合い、もっと家事や育児のことを話しあっていくことが必要。
●男性は、一人になったらどうやって生活していくかを考えて積極的に家事に参加していくことが必要。
●定年後は、町会の活動などに積極的に参加し、地域でのつながりを持つことが必要。

助言者のまとめ

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、**今号の内容を要約した文字情報**を音声で聞くことが出来ます。専用の読み取り装置は市内の公共施設９か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。

事例発表

事例発表者

小野　豊（おの　ゆたか）氏
（福生市公民館サークル「男の台所」代表）

小野さんが料理をするきっかけは、妻が病気になり、自分で朝食を作らなくてはならなくなったことでした。

その後、公民館の講座「男の料理教室」に参加し、そこで知り合った人達とサークル「男の台所」を始めました。

「男の台所」の活動は、料理をするだけではなく、スーパーでの食材調達から始まります。

現在は、腕前が未熟なため妻に食べてもらってはいないそうですが、腕前が上がったら娘さんから誕生日にもらった包丁で料理を作り、食べてもらいたいと思っていらっしゃいます。

小野さんには年子で３人のお子さんがいて、仕事をしていた頃の平日は育児ができなかったが、休日にはやっていたつもりでいました。しかし妻からは「やっていなかったわ」と言われるそうです。

今は、お孫さんのおむつを替えたり、部屋の掃除、ごみ捨て等、家事や育児に積極的に参加するようになりました。

料理をするようになって、料理番組が気になったり、冷蔵庫の中身が気になったり、包丁の切れ味が気になったり…今までは関心のなかったことが気になるようになりました。

最後に「毎日の献立を考える妻のすごさを知りました」「今後、家族の喜ぶ料理や、妻の具合が悪い時には料理を作ってあげたい」と話されました。

事例発表者

長沢　巧（ながさわ　こう）氏
（「西東京市パパクラブ」所属）

長沢さんは、妻とお子さんの３人家族で、2005年の長男の誕生時に４週間の育児休暇を取得しました。

育児休暇は、妻が出産時に実家に帰れない事情や、また長沢さん自身、父親が育児参加をする環境で育ったことから、自分も育児に参加したいと思い、取得をめざしました。

しかし、男性が育児休暇を取得した例がなく、会社との話し合いの末の取得となりました。

育児休暇の４週間は主に家事全般を担当し、毎日の食事、献立を考えることの大変さを感じたそうです。

家事と育児については、継続して関わっていくことが大切。自分は育児休暇という集中した時間をもてたのは大変良かった。

会社では、その後３人の男性が育児休暇を取りましたが、誰かが最初の一歩を踏み出すことによって、どんどん広がっていくことを感じました。

その後、市主催の「初心者のための基礎から学ぶパパごはん教室」に参加し、自分が作った料理を子どもが喜んで食べてくれるので、モチベーションもアップ。これからもどんどん作りたいと思っています。

この教室参加者でその後「西東京市パパクラブ」を結成、地元の父親同士の交流を深める機会となりました。それまでは妻と子どもだけが、地域のコミュニティとの関わりが増えていくのを見て、なんだか自分だけ損している気持ちになったり、羨ましく思っていました。

「パパクラブ」では父と子でダンボール遊びや、バルーンアートのイベントを行なっています。去年は市の補助を受け「パパスクール」で6回の講座を実施し、多くの方に参加してもらいました。地域で活動することで、仕事とは別の知り合いができることはとても楽しい、と話されました。

助言者からグループ討議の前のポイント整理

助言者

中澤智恵氏
（東京学芸大学教育学部准教授）

事例発表者のお二人は、30代と60代という年齢差もあり、どういうふうに料理に関わって来たのかの経緯も違っていて、参考になることが沢山あったと思います。

お二人の発表を聞いて、「時代が変わって来たな」「問題も解消されてきている」と思うかもしれませんが、問題は「もうないと思う」か「まだまだあると思う」か、何を求めるかの基準が違えば、評価も違ってきます。

内閣府の調査で、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」に賛成か反対かという質問があります。今までは「男は仕事、女は家庭を守るべきだ」という意見が減ってきていたのですが、最新の調査では逆に賛成が10%増え、特に20代で20%ぐらい増えました。

これは、男女とも仕事を持ち、家庭生活をすることがますますむずかしい状況になってきたことで、若い世代にこういう意識が強くなってきてしまったのではと分析されてます。

意見交換については、男性が家事・育児に参加するために何が必要か、なぜ男性が家事育児に参加しないのか、したいと思っているのにできないのか、そこにどういう問題があるのか？何が課題なのか、何が原因なのかをみつけ、どうしていけばいいのかを話しあってください。

フォーラム
参加者

グループに分かれて討議

助言者からのまとめ

●経験を聞くことによりモチベーションがあがり、経験を共有したり参考にしあうことが大事。
●知識・制度を知ることが大事。
●学びの場などを作っていくことが大事
「何事も求めなければ得られない！」

どうすれば豊かに暮らせるのか、心地よく暮らせるのかの目安の一つとして男女平等があります。より楽しく、家事・育児、家庭責任、仕事の責任をみんなで分担していくと楽しく暮らせるようになると思います。

家事・育児を「やってよ！」「やるべき！」など義務で言われても楽しくありませんが、でもやってみると楽しくて、家族も喜ぶと、もっとやってみよう、となります。

世論調査を見ると社会は平等になってきているように思えます。学校も制度も平等だと言われたりしますが、実際はけっして平等が達成されたとは言えません。企業が育児休暇を取れるような働き方になってないことは、今日の事例発表でも分かりました。税や社会保障等によってどの程度貧困が削減されるかのデータがありますが、日本は共働きだと貧困が拡大されてしまいます。このデータはあまり知られていませんが、日本は調和のとれた仕事と家庭生活を送り、男女平等を達成するには程遠い状況にあるのです。企業にも努力してもらう必要があるし、私たち自身も身近なところから変えていく必要があります。

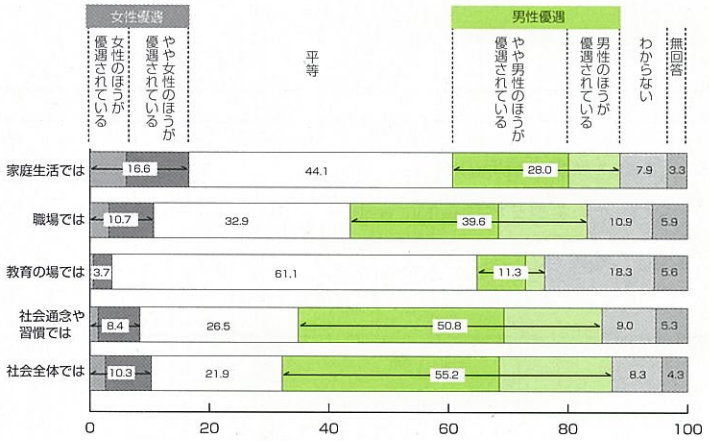
今の男性は、子育てに関わりたいという意識を持っており、育児休暇を取る男性は増えてきています。育児休暇を取ると「手伝い」ではなく責任を持って家事や育児に関わるので、お手伝い感覚が抜けるというのが大きなメリットです。

家事や育児をしっかり自分の責任として担うことで、継続していくことに繋がります。

育児はしたいけど家事はしたくないといっても、小さい子どもの育児はほとんど家事であるので、家事力が身につく、そこから地域活動に関わるなど、いろんな連鎖反応が起こります。制度や社会といった大きな事が変わらないとなかなか動かないこともありますが、育児休暇を機会に、料理を機会に、地域活動を機会にと、小さなところから変わっていけるところもあります。その両方が大切なのです。

福生市民は男女の地位についてどのような意識を持っているのでしょう
福生市 市政世論調査　報告書より

設問　男女の地位　あなたの身近なそれぞれの場において、男女の地位は平等になっていると思いますか。
その場にいない場合でも、周りを見て最も近いと感じるものをお選びください。



半数以上が【平等】と感じているのは、教育の場のみとなっています。
社会全体では、【男性優遇】が半数を超えています。
「男女平等はもう当たり前」という声もありますが、福生市の市政世論調査では、このような結果が出ています。
今回の男女共同参画フォーラムでも、大きなところから（社会や制度など）も小さなところからも（各家庭など）変わっていかないと、この【平等】が増えていかないとの助言がありました。皆さんはどのように感じられますか？

資料：福生市 市政世論調査　報告書平成24年11月
調査対象：市内在住の満20歳以上の個人
標本数：1,000

広告を募集しています！ 次号は7月発行予定です（全戸配布）

「あなたとわたし」に掲載する広告を募集しています。
【規格】 4.5センチ×9センチ。各号2枠
【広告料】 1枠：15,000円
※申込み用紙は市のホームページからダウンロードできます。内容により広告掲載できない場合がありますので、詳しくはお問い合わせください。
【問合せ】福生市生活環境部協働推進課　TEL 551-1590

市民編集員　○興水和代　○寺﨑敏枝　○濱原幸恵
企画編集　NPO法人 NAFA子育て環境支援センター

あなたとわたし vol.41　2013年3月号
発行：福生市 生活環境部 協働推進課
〒197-8501 東京都福生市本町5番地　電話 042-551-1590
http://www.city.fussa.tokyo.jp/